

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録(3日目)

(令和6年3月6日 午後1時55分)

●議長(佐藤武雄) 休憩前に続き、会議を開きます。

通告の4、湊喜一議員。

- 1、防災・減災について
- 2、带状疱疹ワクチンの助成について

議席番号10番、湊喜一議員。

◆10番(湊 喜一) 議席番号10番、湊喜一です。通告に従いまして、2点の質問をさせていただきます。まず最初に、令和6年、能登半島地震が発生して2か月が経ちました。この場をお借りして、お亡くなりになった方々に、哀悼の意を申し上げますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。防災、減災についてであります。明日は我が身であります。災害多発列島日本です。災害に強い信濃町をつくりたいと思い、過去、自治防災組織の立ち上等々、様々な防災に関する提案をさせていただいておりますが、町も少しずつですが、取り組みをしていただいていることは評価させていただきます。今回は防災、減災の観点から、フェーズフリーという考え方を中心に質問を進めていきます。フェーズフリー、聞き慣れない言葉ですともわからないですが、備えない防災、日常と非日常を切り離さない、切り分けないということをフェーズフリーと言います。要するに、普段使っている商品やサービスを、災害時に役立てるという考え方です。防災用品と言いますと、普段はしまっていて非常時にのみ取り出して使うものという考えが主流であります。フェーズフリーはそういう考え方ではない。平常時、日常時に愛着を持って利用しているものを、非常時に役立てることができる、いつもの時も、もしもの時も、常に私たちが快適に心地よく使用できるものやサービスが、フェーズフリーというものです。災害時にはバケツになるエコバッグ、軽量カップとして使える紙コップ、そういう商品だけではなく、フェーズフリーのコンセプトを取り入れた公園や施設もあります。先進事例として、三重県の東員町のマメマチカフェというのがあるんですが、そういうもの、それと鳴門市の取り組み、非常にフェーズフリーに取り組んでおられる市であります。また、普段はビジネスホテルとして営業しているトレーラーハウス。コンテナの下にはタイヤが付いていて、非常時にはトラックで牽引して、被災地に移動し、避難者の宿泊施設として利用することができます。移動とライフラインの接続をして最短3日で提供できるというものです。この会社はもともと、コンテナを使ったトランクルームを運営していた会社で、東日本大震災で備蓄倉庫などを提供したとなっています。その時に、避難所の被災者にプライバシーがない状態を目の当たりにして、移動できるホテルを思いついたそうです。現在、インターチェンジや工業地帯に近い所にビジネスホテルを立地し、利用者を獲得して急成長している会社でございます。全国で70か所、2400室を運営している。現在126の自治体と災害派遣協定を結んで、災害に備えているフェーズフリーの代表的な会社であります。そういうことで、信濃町

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録（3日目）

の災害と災害対策の状況を把握した上で、フェーズフリーを考える必要を感じますが、町長の見解をお伺いします。

●議長（佐藤武雄） 鈴木町長。

■町長（鈴木文雄） ただ今の、湊議員からの質問にお答えいたします。湊議員がご説明いただきましたように、フェーズフリーとは身の回りにあるもの、あるいは、サービスを、平常時はもちろんのこと、非常時にも役立てるようにするという考え方というふうに承知しております。私どもの、普段の生活においても対応できるようなものが結構あるのではないかと思いますので、今後、こうした考え方を広く町民に周知していくことも必要かと考えているところであります。以上です。

●議長（佐藤武雄） 湊議員。

◆10番（湊 喜一） フェーズフリーは、町長も、ある程度意識していただいていると受け取れました。この提案した色々な参考にさせていただいたのは、NHKの解説委員をされている松本浩司氏が公表されているものを参考にさせていただきましたが、その中に鳴門市のことを紹介されていたんですね。資料として、教育委員会には事前にお渡ししていたんですが、いつもともしものがつながる学校のフェーズフリーというのが中にありまして、そこへ、また鳴門市のホームページで見せていただいて、防災教育として、非常にいいことをされている。その内容も文科省が委託して、学校安全総合支援事業としてされている、この防災教育の観点から教育に取り込んでおられるということです。これも、信濃町、ぜひとも取り入れていただきたいと思いますので、教育長の見解をお聞きしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 佐藤教育長。

■教育長（佐藤尚登） お答えいたします。鳴門市教育委員会の報告書を拝見しましたが、それによれば、ただ今の、町長も答弁をされていたとおりですが、フェーズフリーとはいつもの暮らしがある日常時と災害が起きた時の非常時を分けるのではなく、毎日の学校生活に非常時に役立つ要素を取り入れること、というふうに理解できます。個人的には、公の文書での外国語の使用は抑制的であるべきだというふうに思いますので、例えばフェーズをフリーにしてという言い方は、もう少し適切な分かりやすい日本語はなかったかなという思いがありますけれども、防災は特別なこととしないで、普段の授業に非常時に役立つ内容を織り込むことで、知らず知らずのうちに児童、生徒が防災意識を高めたり、あるいはいざという時に役立つ技術を身につけることができるようになるという指導のあり方は、大変結構なものだと考えます。先進事例の中で挙げられている、非常時に役立つ要素を拝見しますと、当町の信濃小中学校でも既に授業で取り入れているものもあるようです。これを参考にしながら、当町で、どの程度、どういう形で取り

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録(3日目)

入れられるか、児童、生徒や教職員に過重な負担とならないよう配慮をしながら、学校と相談して進めていきたいと考えるところです。

●議長(佐藤武雄) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) 確かにフェーズフリーと聞いたら、うーんと一瞬思いますね。日常がそのまま非常時になるという、ある意味、発想の転換かもわからないですが、なんで英語を使うのかな、というのも私もあります。適切な日本語はないかもわからないです。だから、いつもともしもがつながるといふこの言葉は、いい言葉だなとは思っております。ぜひとも、学校教育の中で防災教育、いつもともしもがつながるといふ。このことが、普段の生活に入っていくと、非常に防災に強い考え方ができると思っております。最近、能登半島の地震の被害の報道を見ていますと、ビニールハウスを自主避難所として使っているのが報道されているのを見受けました。これも一つフェーズフリーだなと見ていて思いました。そういう発想の転換といひますか、備えないで普段使っていたものが非常時に非常に役に立っている、そういう考え方で普段も使っている、その時にビニールハウスがその時に思い付かれたと思うんですが、常にそういう形で用意を備えておくと、このフェーズフリーという発想が出てくると思ひますので、そういうところを町民に、ぜひとも周知していただきたいと思ひます。また、考え方としてローリングストックというものもあります。先ほど同僚議員の方から、備蓄を古いものから使っていくという話がありましたけれども、家庭においても賞味期限の長いものを災害用にとっておくのですが、食品や水など少し多めにストックしておいて、古い順から食べていって、食べた分だけ補充していくという考え方ですね。常にそういう観点でやっていくということが、非常に大事だと思ひます。またキャンプですね、今、キャンプが一つブームになっておりますが、キャンプでいろいろなアウトドアでの生活、そういう体験も非常に非常時に役に立つことだと思ひますので、フェーズフリーというものは、普段使うものの仕組みを災害時に役立てるものだといふ考え方、それがまた、普段の生活の質を高めることにもつながると思ひます。災害に対してもしなやかで強い社会を作っていくための、一つの大きなヒントになってくると思ひます。自助共助の観点から、フェーズフリーの考え方、町民の方々に浸透させていくことが一番の肝要な部分だと思ひます。先ほど町長にも、町民に、こういう周知したいといふ旨の答弁がありましたけれども、フェーズフリーの意識を浸透するどういふ方策をしたらいいのか、町長の見解をお聞きしたいと思ひます。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) フェーズフリーを体感し、そのメリットといひますか、そういったものを広く町民に知らせる方法となりますと、ちょっとにわかには具体的な中身をイメージしにくいんですけども、例えば、先ほど湊議員がおっしゃられましたキャンプのように、日常生活の本当に近いところでのレジャーだと思ひますけれども、実際キャン

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録(3日目)

プをやってみますと、全く日常生活とは別の時間を過ごすことになる、あるいは仲間と色々な時間を共有するというような、そういったレクリエーションだと思いますので、そういったキャンプのような共同で行うレクリエーション、そういったものを子どもたちの世代と大人たちが、共同で行うようなイベントを企画するのも一つの方法ではないかと思ったところであります。以上です。

●議長(佐藤武雄) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) それも一つの方法だと思っております。あと、総合防災訓練の時に、備蓄されている古いものから、その時に、試食をされているということは、私も再三見てこれは良いことだと思っておりました。その他に、ワークショップなんかも、総合防災訓練の時に、このフェーズフリーの考え方を話しながらのワークショップ、いろんなアイデアが町民の間からも出てくると思います。ぜひともこのワークショップなんかも、開いていただければいいんじゃないかなと。それと、鳴門市でやっていることなんです。町民運動会、信濃町で過去やっていた、その同じようなことをやっている種目の中に、毛布と竹で即席の担架を作って、それで競争をするといいますか、そういう競技が種目の中にあるのを紹介しておりました。こういうことも、防災訓練の時に出来上がるスピードを競うのではなくて、出来栄を競うような競技もいいんじゃないかなと。総合防災訓練と言いながら、ある意味そういうのも取り入れていくと、おもしろいと思うのですが、いかがでしょう。見解をお聞きします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 湊議員からご提案いただきました。他にもさまざまなあり方があろうかと思っておりますので、研究させていただき、例えば防災訓練の場を利用するとか、そういったことも検討してまいりたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) あと、信濃町でよく災害で多く発生すると思われるのは停電だと思います。特に冬の時期、停電をしますと暖房が止まるという、今この議場にも灯油のストーブがありますが、これも電気がなければ使えない。フェーズフリーとしますと、電気を使わない石油ストーブも確かあります。ぜひともそういうものも普段使っていて、停電した時に大きな災害だと思いますので、そういうストーブも家には一つあるような、そういうことも必要だと思います。そういうことも、ぜひとも町民に周知していただきたいなと思います。それと道の駅しなのですね。これ、非常に防災拠点としては最高の立地条件を持っていると思います。国交省も、道の駅を防災拠点として認定して進めておりますが、道の駅しなののは、その防災拠点としては認定されていないのですが、この推進主体は長野県でありまして、実は先日道の駅をぜひとも防災拠点としてできないか

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録(3日目)

など、公明党の勝山県議と道の駅しなのを視察させていただいて、こういう言葉、言っているのかな、先手のまな板に乗れるように、お願いをいたしまして、町としてもぜひとも県、国に働きかけをすべきではないかと思うのですが、いかがでしょう。

●議長(佐藤武雄) 通告にないので、答えられますか。はい。松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 道の駅ですので、国交省ですので、私の方ではないんですが、私の方で見させていただいた部分があるので、それだけお伝えしたいと思いますが、道の駅の裏側に貯水タンク等をもっておりまして、災害時に仮設トイレを付けられるように、もう整備を進めていただいております。それで私、防災担当課もそこへ一緒に行ってみさせていただいたところです。あと、発電機等も用意をされて、もう災害時にはそういう形で、緊急用トイレも整備されていると。今あるトイレとは別に、マンホールにトイレを置いて流せるような仕組みまで、国交省の方でやられているということでございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) ぜひとも道の駅、例えば、トレーラーハウスをもってきて、避難所にする、町の考え方としては、そこは観光客に対する防災、災害時の避難所としてやられているということを以前お聞きしたのですが、町民に対しても、あそこは一つの防災拠点となる場所だと思っておりますので、ぜひそういう総合的な観点から、防災、減災に利用させていただきたいなと思っております。あその敷地をうまく利用すれば、まだまだいろんな施設ができると思いますので、そういう広い観点から取り組んでいただきたいなと思っております。フェーズフリー、しっかり取り組んでいけば今、防災、災害に対する町民の意識は非常に高まっていると思いますので、今町民に対して、いろんな周知をしていくのはタイムリーだと思いますので、ぜひとも取り組んでいただきたいと思っております。次の質問に移りたいと思っております。2番目の带状疱疹ワクチンの助成についてであります。令和6年6月の会議で一度、带状疱疹ワクチンの助成ができないか質問させていただきましたけれども、全国的に最近、自治体の带状疱疹ワクチンの助成をする自治体が増えております。ただ、長野県は今わかっているだけで、1市5村が助成しているだけあります。松本市と南牧村、北相木村、下条村、天龍村、大鹿村なんですが、最近、令和6年の4月から塩尻市も助成するという事に決まったようであります。带状疱疹に誰もがなる可能性がある、水ぼうそうのウイルスがかかったことある人間は、常に体内にそのウイルスが潜んでいて、50歳から80歳になって免疫力が落ちたところに、水ぼうそうのウイルスが带状疱疹を起こすと、3人に1人を発症すると言われております。やっかいなのは後遺症で、神経痛、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴、ストレスとか、加齢による免疫力低下で発症すると言われております。ワクチン接種が非常に有効であると。ただ、このワクチンの効果の高いものにつきましては、最低9年以上の効果を持続するという事で、ただ2回接種で4万4千ほどかかる。不活性ワクチンだと9年間も

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録(3日目)

って、ただし、2回接種で4万4千ほどかかると、非常に負担感の大きい。生ワクチンだと1回接種だけで、もう少し安いですが、5年間くらいの有効期間であると言われていいます。前回、質問をさせていただいたときは、国の方がかなり動きそうな雰囲気だったんですけど、厚生科学審議会の予防接種ワクチン分科会予防接種基本方針部会というところが、ワクチンの評価に対して小委員会を審議しているところなんですけど、まだまだ期待される効果や導入の年齢に関して検討を要するというので、なかなか進んでいないと、とどまっております、まだまだ先は長いと感じています。各自治体が先行して、ワクチン接種を助成し始めております。带状疱疹の発症状況は、全国的な数値データというのはないんですね。ところが宮崎県で、皮膚科医師会所属の医療機関で調べたところ、患者の統計が1997年以降、最近まで一貫して患者数は増えているというデータが出ております。ほぼほぼ全国的に同じような傾向だと思います。また、带状疱疹にかかった方のお話を聞いたんですけど、非常に後遺症に悩んでおられまして、神経痛ということで非常に苦しんでおられました。国の予防接種の定期接種を待つのではなくて、いくらかでも助成すればワクチン接種する動機になると思います。結果として、発生を抑制すると医療費の抑制にもつながる。また、外出の機会を取り戻すと言いますか、なくすということがないと、経済活動の活性化にもつながる。前回に続きまして、ワクチン接種の助成制度の導入を求めたいと思います。最近、テレビで带状疱疹、厄介な病であるということ、非常に宣伝しております。国保会計の負担の軽減のためにも、町民の健康的な生活維持のためにも、この助成制度を創設すべきだと思いますが、町長の見解をお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) ご質問の带状疱疹ワクチンについてでございますが、現在、国の厚生科学審議会において、効果の持続性や対象年齢、期待される効果、安全性などについての議論が慎重に行われているとお聞きしております。発症率を抑えて、重症化を防ぐ、また医療費の削減といった観点からも、手厚い公費助成が望まれると認識しておりますが、接種後の副作用や副反応や、健康被害が社会的に問題となることも多いため、今後も国の動向を注視しつつ、慎重に検討してまいりたいと考えておりますので、ご理解くださいよう、よろしく願いいたします。

●議長(佐藤武雄) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) 後遺症がうんぬんと言われましたけれども、国の方は慎重になっておりますが、東京はほとんどの市区町村が助成をしております。特に大都市は、助成を始めております。このワクチンで、ひどい後遺症が出たというニュースも聞こえてきていないので、後遺症は、副反応ですか、そういうのは、なんとかクリアできているようには思います。特に首都圏、大都市圏で助成が始まっております。やはりこの带状疱疹の後の後遺症が、非常に厄介であるということ、そういうところを防ぐという観点から

令和6年第422回信濃町議会定例会3月会議 会議録(3日目)

このワクチン接種をぜひとも助成を進めていただきたいと思いますので、しっかりこの辺研究して、町民の快適な生活を担保していただきたいと思いますので、しっかりこの辺のところを研究していただいて、助成の方向を、助成に踏み切っていただきたいと思いますので、再度、お願いいたします。

●議長(佐藤武雄) 鈴木町長。

■町長(鈴木文雄) 繰り返しになりますけれども、国で今、現時点で検討をしている最中ということでございますので、そういった検討の結果を踏まえて、町としてどういう方向で対応をすべきか、判断してまいりたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 湊議員。

◆10番(湊 喜一) 前回と同じ答弁でございました。ぜひとも、国に先んじて、やっていただきたいと思いますという思いで質問をしております。町民の健康を守るため、ぜひとも踏み込んでいただきたいと思いますという思いを込めまして、私の一般質問を終わりたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 以上で湊喜一議員の一般質問を終わります。この際、午後2時40分まで休憩といたします。

(終了 午後2時26分)